

1. 研究のねらいと方法

(1) これまでの3年間の研究調査研究の視点

今年度は、2004年度から4年間にわたる研究の最終年度である。

2004年度の春、箕面市の中央を北に延びる新たな交通機関となる北大阪急行線延伸を機会に、箕面市の交通システムを見直し、今後の箕面市のまちづくりを交通計画から考えるという視点からテーマを設定したものが、「クルマに依存しない郊外生活の可能性に関する研究」である。「クルマ」は公共交通のバスやタクシーではなく、自家用車を示す言葉として用いた本研究会の造語である。

研究は、箕面市の戦後の開発住宅地の分布状況の把握とそれらの住宅地を結ぶ交通体系を知ることから始まった。これらから、箕面市の住宅地は、自家用車に依存することを前提として選ばれた住宅地であることが予測された。一方で、1997年京都で開催された「気候変動枠組条約第3回締結国会議(COP3)」で採択された「京都議定書」では、二酸化炭素などの6種類の温室効果ガスについての排出削減義務などが定められ、自動車の利用の見直しが話題となっていた。そこで、各世帯のクルマへの依存の実態を明らかにしながら、その要因を明らかにすることを試みたのが2004年度の研究である。

2004年度の研究からは、「クルマに依存しない郊外生活」を可能にするための3つの視点、新しい「システム」の導入、人々の「意識」をかえる、「まち」をどのようにつくるか、が導きだされた。

2005年度の研究では、2004年度の研究成果の中で明らかになった、「歩いて行ける距離でもクルマを使って移動する」といった点に注目し、「まち」をどのようにつくるか、特に「道」について研究をすすめた。その結果、住宅地の中で人々が好ましいと思っている道は、「クルマで走りやすい道」と「人だけが利用することのできる遊歩道」の二極に分化していること、クルマ依存度の高い郊外住宅地では、居住者が歩くのは、「散歩」、「ウォーキング」など「歩く」という行為そのものを目的にしている場合であることが明らかとなった。このことは、住宅地を考える上で基本となっていた「徒歩圏内＝生活圏」といった考え方がまったく通用しなくなっているという事実を突き付けられることとなった。

そこで、2006年度は外院の里、外院南の住宅地を事例として、クルマへの依存実態の確認と、それでもやはり歩いて暮らせる住宅地とする可能性はあるのではないかと考え、住宅地の空間改修提案、そして居住者との意見交換を行った。学生による、神社空間の広場としての再生、道路空間の遊歩道化、地域の核としての生活補完機能施設・情報センターの提案は、居住者には一定の理解を得たものの、その実現には否定的であった。一時的、短期的にせよ実験的に実現させ、居住者に体験してもらうことにより、「意識」が変わる可能性があると考えられた。

また、近年の傾向である大阪都心部や千里ニュータウンでの高層共同住宅の建設などにより、高齢者の居住空間の選択肢の広がりが、地域社会への愛着や執着をそぐ傾向にあることも明らかとなった。選択されて居住された住宅地は、居住者が他の場所に住まいを移すことを選択することにより、簡単に手放される可能性があるのだ。

(2) 本年度の研究目的

これまでは、1年目の調査で導き出されたクルマに依存しない郊外生活を可能にするための3つの手法、新しい「システム」の導入、人々の「意識」をかえる、「まち」をどのようにつくるか、に基づき、2年目、3年目の研究を行ってきたのであるが、これらの研究手法は、現状の把握とその改善の提案であり、今後の新たなまちづくりに向けた提言を示すことはできなかった。北大阪急行の延伸は箕面市にとって交通政策上の大きな転換期であり、このチャンスを生かして、今後のまちづくりをどのように考えていくかという課題に応えるには、北大阪急行の延伸が箕面市にもたらす影響を予測し、箕面市で展開されてきた「クルマに依存した郊外生活」の根本的原因の把握と、今後のまちづくりにおいて「クルマに依存しない郊外生活」を実現させるための方策を、総合的な視野で提案する必要がある。

そこで、本年度は3年間の研究の取りまとめとして、これまで研究会にこれまで参加いただいた大学の教員の方々、あるいは、箕面市の都市計画などに詳しい大学の教員の方々にお集まりいただき、ブレインストーミング形式で、箕面市の交通・まちづくり、北大阪急行の延伸を含めた今後の箕面市の交通システムの整備にともなう予測されるまちの変容に対し、今後どのようにまちづくりを進めていくべきかなどについて意見交換の場をもち、そこで出された考え方をまとめることが目的である。

(3) ブレインストーミングの概要

ブレインストーミングは、2008年2月4日(月曜日)と、2月13日(火曜日)の2回、3名ずつ、2時間ずつ行った。

参加いただいたメンバーは、以下の通りである。

- | | |
|--------|-------------------------|
| 増田 昇 | (大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授) |
| 新田 保次 | (大阪大学大学院工学研究科 教授) |
| 瀧端 真理子 | (追手門学院大学心理学部准教授) |
| 小浦 久子 | (大阪大学大学院工学研究科 准教授) |
| 嘉名 光一 | (大阪市立大学環境都市工学部 准教授) |
| 松村 暢彦 | (大阪大学大学院工学研究科 准教授) |

進行は岡 絵理子(関西大学環境都市工学部 准教授)がつとめ、記録は西野 奈那(関西大学大学院博士後期課程2年)が担当した。

箕面市からは、出席者は以下の2名である。

- | | |
|-------|-------------------------|
| 柿谷 武志 | (箕面市役所 都市計画部交通政策課長) |
| 中村 誠一 | (箕面市役所 都市計画部交通政策課 課長補佐) |